

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく 渡良瀬川の減災に係る各構成員の取組事例

令和4年5月30日

渡良瀬川大規模氾濫に関する減災対策協議会

足利市、栃木市、佐野市、桐生市、太田市、館林市、みどり市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町、
加須市、栃木県、群馬県、埼玉県

(独)水資源機構草木ダム管理所、気象庁宇都宮气象台・前橋气象台、
東日本旅客鉄道株式会社高崎支社、東武鉄道株式会社、上毛電気鉄道株式会社、わたらせ渓谷鐵道株式会社、
関東地方整備局渡良瀬川河川事務所

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名: 足利市

足利市洪水・土砂災害ハザードマップを発行

○具体的な取組

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域等を考慮したハザードマップの作成・周知

○実施概要

令和3年8月、最新の洪水浸水想定区域図や土砂災害警戒区域などを反映した洪水・土砂災害ハザードマップを発行した。

想定最大規模降雨の反映

- ① 渡良瀬川
- ② 桐生川(国管理部分)
- ③ 桐生川(群馬県管理部分)
- ④ 旗川(国管理部分)
- ⑤ 旗川(栃木県管理部分)
- ⑥ 矢場川(国管理部分)
- ⑦ 袋川
- ⑧ 松田川(ダム下流域)
- ⑨ 利根川

浸水リスク想定図の反映

- ① 名草川
- ② 出流川
- ③ 姥川
- ④ 矢場川(栃木県管理部分)
- ⑤ 小俣川
- ⑥ 清水川
- ⑦ 尾名川

車中避難場所の掲載

4カ所



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：栃木市

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：感染症対策を考慮した避難所開設訓練

○実施概要

避難所担当職員を対象として、避難者受入時の手順及び避難所での感染症対策について確認するとともに、避難所をスムーズに開設できるようにすることを目的とした避難所開設訓練を令和3年6月29日(火)に実施した。

＜訓練内容＞

- ・避難所運営マニュアルの内容確認
- ・避難所用品の確認(IP無線機、避難所備品の確認)
- ・間仕切り等の組み立て(パーテーション、簡易テント、簡易トイレ、携帯トイレ等の使い方)
- ・避難者受入訓練(避難者役と避難所担当者役に分かれての受付訓練)



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：佐野市

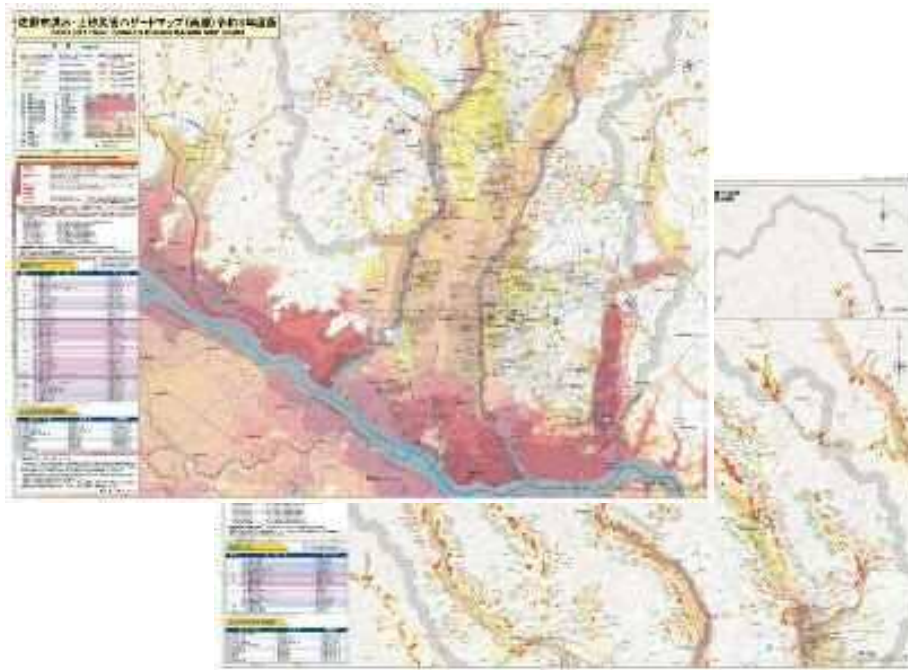
平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：想定最大外力を反映した洪水ハザードマップの策定および普及・啓発

○実施概要

洪水・土砂災害ハザードマップの改定

- ・出流川、菊沢川、三杉川、彦間川、小曾戸川、秋山川(上流)の浸水想定区域及び浸水深を追加
- ・土砂災害(特別)警戒区域の追加及び見直し等
- ・改訂内容をまとめた説明動画を動画投稿サイトに掲載



令和3年度佐野市洪水・土砂災害ハザードマップ



ハザードマップの解説動画
(YouTubeに掲載中)

機関名:桐生市

○具体的取組：浸水想定区域の住民を対象としたマイ・タイムライン作成講習会の実施

群馬県河川課、桐生土木事務所と共同で河川の浸水想定区域の住民を対象にマイ・タイムライン作成支援の講習会を実施した。

- ・実施日時: 令和3年11月29日(月) 午前10時 ~ 正午
- ・対象地区: 桐生市第11区(境野町殿林 外 10町会)
- ・参加人数: 14名

[illegible]

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：桐生市

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：小学校の社会科の授業内で防災に関する出前講座を実施

○実施概要

小学校の社会科の授業(単元：住みよいくらしをつくる)内で、身近で起こり得る自然災害や、災害から身を守るために普段から行っておくべきことなどを市防災担当職員を派遣し、講義を行った。

- ・実施日時：令和3年11月9日(火) 午前11時40分～午後0時25分
- ・実施場所：桐生市立広沢小学校
- ・参加児童：第4学年 84名



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：太田市

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：コロナ禍を想定した避難所開設訓練の実施

○実施概要：避難所開設における手段や役割分担等を確認し、避難所運営に万全を期するため訓練を実施。感染症対策を考慮した運営についても併せて確認した。

対 象 者：避難所運営担当職員 1 1 1 名

訓練内容：避難所レイアウト・物品展示、避難者の誘導・受付、ダンボールベッド組み立て



《避難者の受付》



《ダンボールベッド組み立て》

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：太田市

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：マイ・タイムライン作成支援の実施

○実施概要：マイ・タイムラインの作成を支援するため講習会を実施。併せて市ホームページ上にページを設けインターネットでも普及促進を行っている。

主 催：河川氾濫に関する群馬県減災対策協議会太田地域部会

参加者：32名



《講習会の様子》



《ホームページ》

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：館林市

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組：避難行動要支援者個別避難計画作成

○実施概要

令和2年10月 館林市防災アドバイザー（片田敏孝東京大学大学院情報学環特任教授）を核とした
庁内外検討体制を構築し、ワーキンググループにおいて検討を重ねた

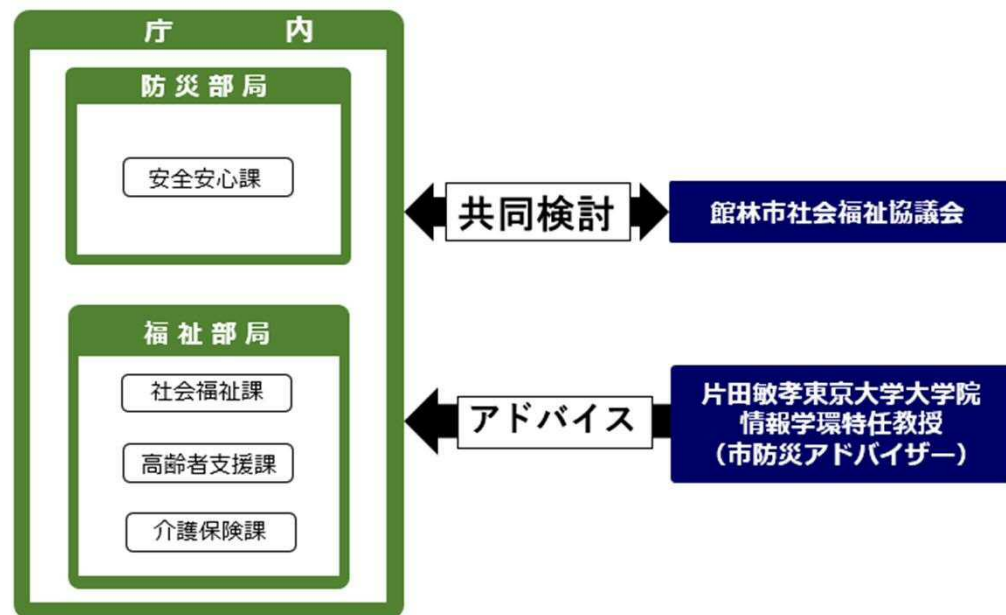
令和3年5月 内閣府のモデル事業に採択される

令和4年2月 全体計画策定

令和4年3月 個別避難計画様式策定

令和4年度～ 個別避難計画作成予定

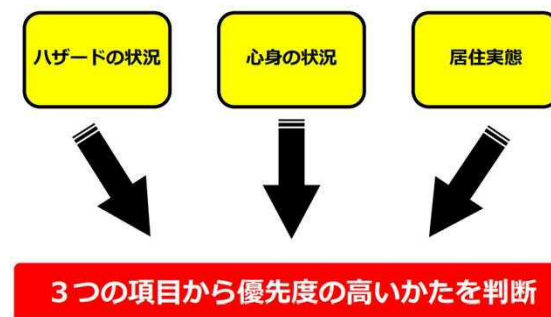
【庁内外連携体制】



【個別避難計画の位置付け】



【個別避難計画作成の優先度】



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名: 館林市

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組: 渡瀬地区防災訓練

○実施概要

日時: 令和3年10月23日(土)午前7時30分～午前11時20分

場所: 館林市立第九小学校

参加者: 地区住民(約150人)、館林市立第九小学校(児童190名、保護者)、
館林市防災士連絡会、渡瀬公民館、館林市

概要: 参加体験型訓練(避難所資機材取扱訓練、防災のはなし、防災〇×ゲーム)



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：板倉町

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：詳細版ハザードマップの作成

○実施概要：想定最大規模降雨での浸水状況を詳細に表示し、住戸一軒毎に在宅避難の可否を表示したもの

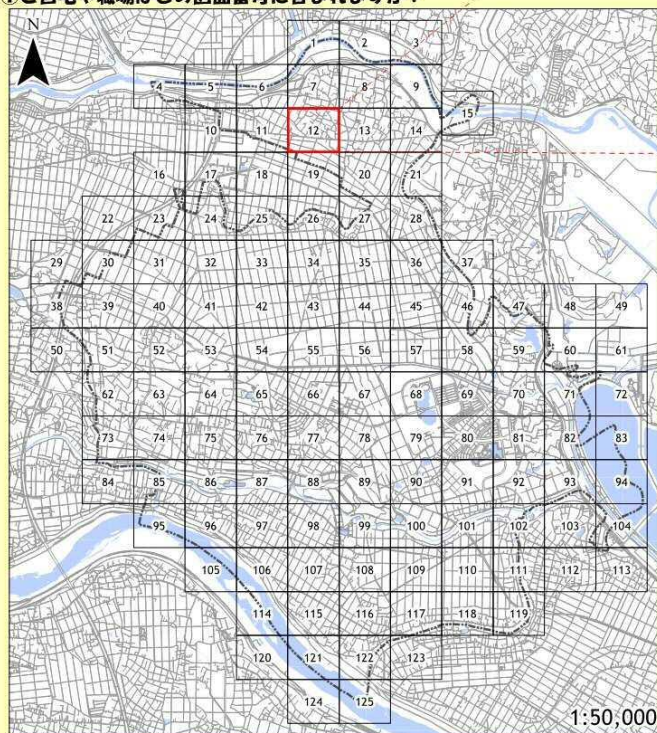
板倉町詳細版ハザードマップ＜手引き＞

はじめに

○近年、全国的に台風や豪雨などによる風水害が多発しています。災害に対しては、日頃の備えが重要です。
町では、風水害に備え、町民の皆さまが避難行動を考える際の指標となる「詳細版ハザードマップ」を作成しました。
ご自宅や職場がどのような状況にあるかを確認し、ご自身やご家族の安全を確保してください。
○詳細版ハザードマップは、「手引き（本紙）」と「個別図」で構成されています。
詳細版ハザードマップの使い方や見方は、「手引き」で確認してください。

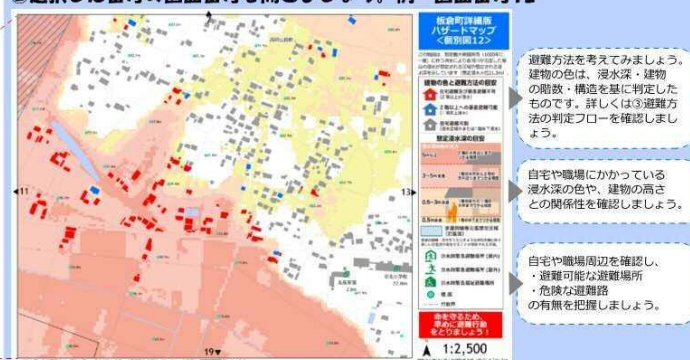
詳細版ハザードマップの使い方

①ご自宅や職場はどの図面番号に含まれますか？



測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R3JHs 214

②選択した番号の図面番号を開きましょう。例…図面番号12



隣接する図面番号です。気になる場所があるかたは、確認しましょう。

※浸水想定区域図の全体図は、板倉町防災マップや、町のホームページを確認しましょう。

③避難方法の判定フローを確認しましょう。

フローをたどり、避難方法を確認しましょう。
詳細版ハザードマップでは、下の判定フローに従い、建物の避難方法を判定しました。結果は個別図を確認してください。



※判定に用いた建物の階数・構造等の情報は、現状と異なる場合があります。必ず、想定される浸水深をご確認ください。

命を守るため、早めに避難行動をとりましょう！

令和3年8月
板倉町総務課安全安心係

2,500分の1の縮尺にて浸水深を5mピッチで表示。

家屋図等の固定資産情報を用いることで、より現状に即した地図データとした。

固定資産台帳より家屋の階数情報等を取得し、垂直避難を含めた在宅避難の可否を家屋ごとに表示。

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：明和町

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：自主防災組織への防災備品配備及び自主防災組織主導の防災訓練の実施

○実施概要

災害時、共助の中心的役割を果たす自主防災組織に対し、防災備蓄倉庫、炊出しセット、発電機等を配備した。

更にそれらを用いた自主防災組織主導の訓練を実施し、備蓄品使用方法の確認を行った。

配備した防災備蓄倉庫



防災訓練の様子



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

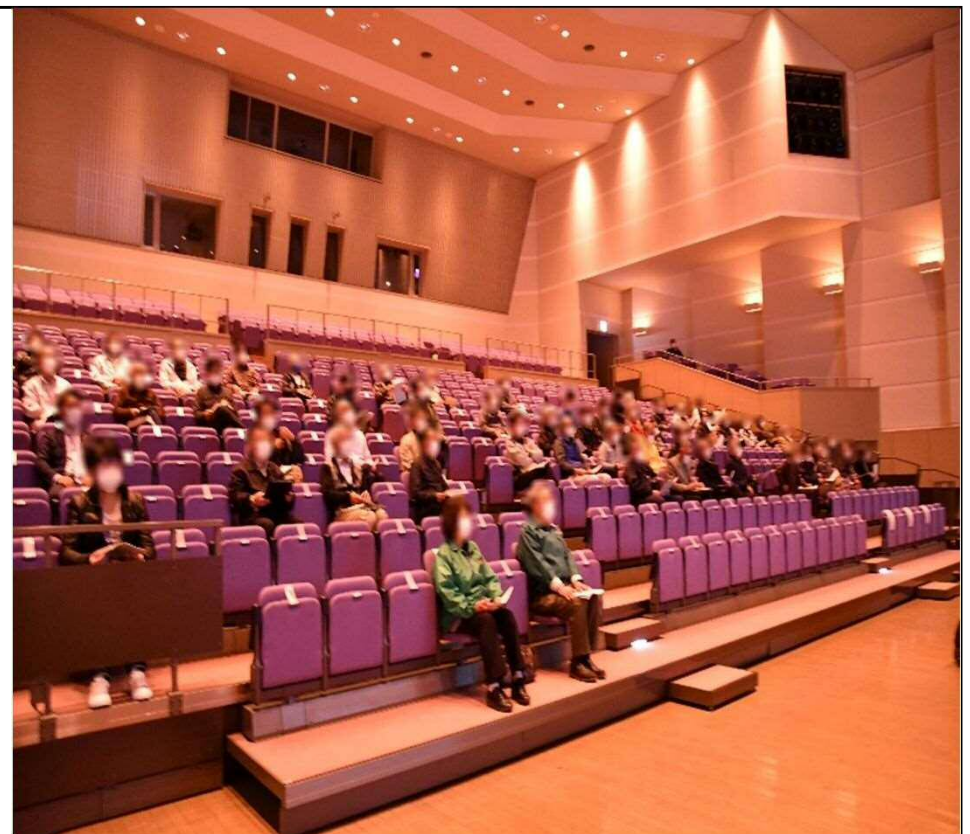
機関名: 千代田町

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組: 防災講演会の実施

○実施概要

コロナ禍ではあるが、千代田町と千代田町自主防災組織連絡協議会の共催で「災害時における物流の停止と備え」と題して、流通経済大学 流通情報学部長の矢野裕児教授を招き、防災講演会を実施した。コロナ禍ということで、参加者についても縮小し、各地区自主防災会の役員及び町内防災士に絞って60名の参加者とした。内容としては、洪水に特化した内容ではなかったが、災害が発生した際の物流の流れについての問題点・課題など多くの受講者が、参考になったと感想を述べていた。この内容は、参加できなかった人たちのために、館林ケーブルテレビにて1週間（1時間番組）の放送を実施した。



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名: 千代田町

水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組

○具体的取組: 職員及び消防隊で実施したコロナ禍に対応した防災訓練

○実施概要

当初の訓練計画では、コロナ禍ということで区長・自主防災組織の参加のもと縮小しての実施予定であった。しかしながら「非常事態宣言」により更なる縮小となり職員間の確認作業（避難所開設・運営及び風水害現場対応）を主体とした訓練とした。

避難所開設・運営訓練の様子



風水害現場対応訓練で指示を出している様子



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：大泉町

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組

株式会社VACANと「災害時避難施設に係る情報の提供に関する協定」を締結

○協定概要

VACANのシステムを活用して、町内各避難所の混雑状況をリアルタイムで配信する。
避難所混雑状況の可視化はコロナ禍において求められている分散避難に有効である。

○協定締結日：令和3年4月22日(木)



協定締結式

避難所で混雑状況を入力



職員が混雑状況を判断し
スマホやPC等から入力



混雑状況をリアルタイム表示



サービスイメージ

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：邑楽町

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：想定浸水深シートの設置（まるごとまちごとハザードマップの整備）

○実施概要

洪水時の指定緊急避難場所となっている町内小中学校（6校）に想定浸水深シートを設置し、水災害意識の向上を図った。



邑楽町立中野小学校の施工例



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名:加須市

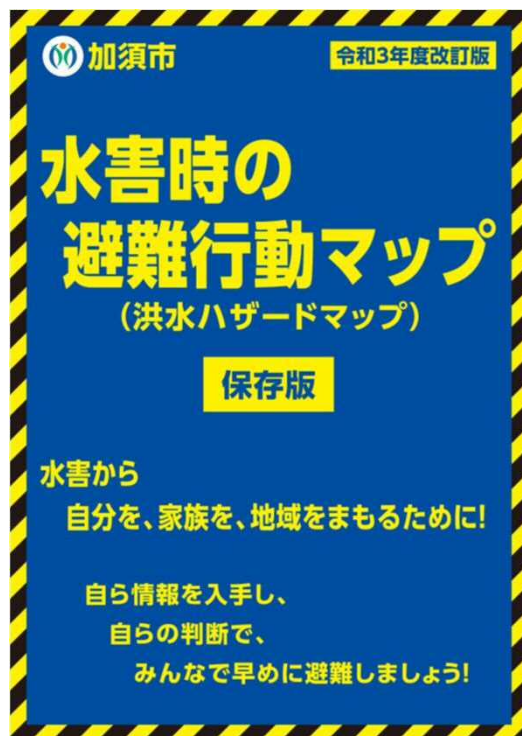
情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組:洪水ハザードマップを改訂

○実施概要

「水害時の避難行動マップ(洪水ハザードマップ)改訂版」を全戸配布

令和元年東日本台風(台風第19号)対応における課題を受け、見直した避難対策を反映したマップを全戸配布した。



避難指示(警戒レベル4)までに全員避難!
～避難勧告は廃止です。～

水害時の避難に関する情報が変更となり、「避難勧告」は廃止され、「避難指示」に一本化されました。(これまでの避難勧告のタイミングで発令)
また、「避難準備・高齢者等避難開始」は、「高齢者等避難」に変更となりました。
高齢者や障がいのある方などは、警戒レベル3 高齢者等避難で避難しましょう。
その他の全ての方は、警戒レベル4 避難指示までに避難しましょう。
なお、加須市では、市が独自に早めの避難を促す情報として、警戒レベル2 自主的広域避難情報を発令します。

警戒レベル・状況	とるべき行動	避難情報等(発令者)	参考(変更前)
1 今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)	早期注意情報(気象庁)
2 気象状況悪化	自らの避難行動を確認 自主的に避難を開始	自主的広域避難情報(加須市) 大雨・洪水注意報(気象庁)	大雨・洪水注意報(気象庁)
3 災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難(加須市)	避難準備・高齢者等避難開始
4 災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(加須市)	避難勧告 避難指示(緊急)
5 災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保(加須市)	災害発生情報

避難場所には必要な物資と避難者カードを持参

水害時避難場所では食べ物や毛布などの提供はありません。「水害時の避難行動マップ(令和3年度改訂版)」の非常時の持ち出し品リストを参考に、必要なものは、各自でお持ちください。
また、避難場所受付での避難を避けるため、あらかじめ避難者カードをご記入のうえ、お持ちください。

(問い合わせ) 加須市危機管理防災課 Tel.0480-62-1111 令和3年6月

災害対策基本法の改正に伴う避難情報の変更、自主避難等に関するチラシを作成し、マップに合わせて各戸配布した。

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名:加須市

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組:スマートフォン用防災アプリを作成、公開

○実施概要

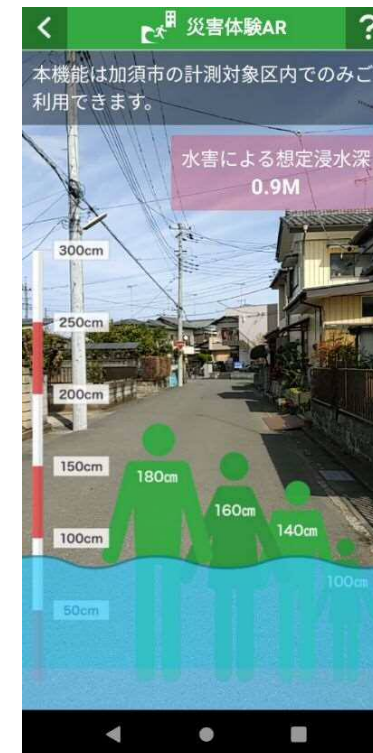
加須市の防災情報を集約したスマートフォン用アプリの公開及び運用を開始した。

1 公開日 令和3年4月1日

2 主な機能 ①防災地図、②災害体験AR、③お知らせ機能、④防災ライブラリ・リンク集



①防災地図



②災害体験AR

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：加須市

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：水害時の避難に役立つ短編動画【新作】を作成

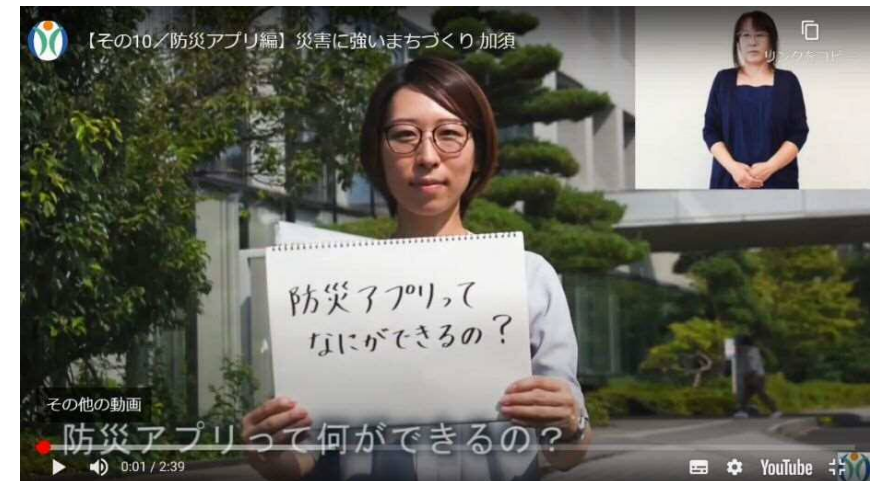
○実施概要

水害時に市民が早い段階で、円滑に避難できるよう、スマホなどで短時間でみられる避難に役立つ短編動画(1本あたり約2分)を、令和2年度に全10本、作成した。

令和3年度には新作「防災アプリ偏」を作成、公開するとともに、作成済みの動画も法改正に伴う避難情報の変更に対応した。



フルバージョン(約22分)



防災アプリ編

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：加須市

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：カスリーン台風写真パネル展を開催

○実施概要

昭和22年に「カスリーン台風」がもたらした豪雨による利根川氾濫の堤防決壊地として、9月16日「治水の日」を機にあらためて大規模水害への備えの大切さを地域に訴えようと開催しました。

展示物 GHQ撮影の記録写真を基に制作された啓発用パネル、「アメリカから見たカスリーン台風（B1判・6枚組）」、市民から提供を受けた体験記と写真

アメリカから見たカスリーン台風 ①

利根川堤防大決壊

1947年9月16日午前零時20分、北埼玉郡東村(現・加須市)新川通地先で、濁流に洗われていた利根川右岸堤防(右図1)が幅約350mにわたり大決壊。東村での利根川決壊とほぼ同時刻の同日午前零時15分、渡良瀬川堤防川辺村(現・加須市)三箇橋付近(右図2)で延長約300mにわたり決壊。堤防を崩した濁流は、埼玉県東部低地を東遷以前の利根川の流れのように流れ下り、東京東部低地(葛飾区、足立区、江戸川区)までも水没させました。

この写真はGHQが撮影し、米国立公文書館(National Archives and Records Administration: NARA)に保管されていたものが、約半世紀の時間を経て日本に戻ってきた貴重な記録写真です。

1947年(昭和22年)
9月22日の様子
(米軍撮影)



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：加須市

水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組

○具体的取組：警察と合同の避難誘導訓練を実施

○実施概要

令和元年東日本台風時の避難において、北川辺地域と避難場所を結ぶ唯一の県道・埼玉大橋付近では、避難車両による大渋滞が発生し、加須警察署が渋滞ポイントの信号を手動に切り替え、渋滞の解消を図った。

今回の訓練では、同様の対応の円滑な実施のため、行われた。



①避難誘導訓練 警察官の手信号による交通整理等



②防災キャンペーン チラシ配布による啓発

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：栃木県

排水活動及び施設運用の強化に関する取組

○具体的取組：排水ポンプ車の配備及び排水操作訓練の実施

○実施概要

近年の地球温暖化に伴う気候変動により、全国各地で豪雨が頻発している。栃木県では、県内における浸水の早期解消を図ることを目的に、栃木土木事務所（小山詰所）及び安足土木事務所（安蘇庁舎、足利庁舎）に排水ポンプ車を合計3台配備した。

また、災害発生時に迅速かつ的確な作業を行う目的で、排水ポンプ車の操作研修を兼ねた訓練を、関係機関と連携し実施した。今後も毎年、出水期前に訓練を実施する。



排水ポンプ車全景



排水操作訓練の実施状況

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：栃木県

避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

○具体的取組：河川CCTVカメラの機器更新

○実施概要

洪水予報河川の基準観測している河川CCTVカメラ15台の機器更新を行うとともに、閲覧画面の高画質化を図り、より鮮明な画像で河川状を把握できるようにした。



【閲覧サイト】

とちぎリアルタイム雨量・河川水位情報システム

URL <https://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/>



一級河川袋川 千歳橋(足利市末広町)

【更新前】



【更新後】



避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

○具体的取組:危機管理型水位計・河川監視カメラの整備

○実施概要:「河川氾濫に関する群馬県減災対策協議会」の地域部会により危機管理型水位計・河川監視カメラの配置計画を作成し、計画的に整備を実施した。整備後は情報発信、収集状況の確認のほか、必要に応じて配置計画の見直しを予定している。

【取組2】河川監視カメラ・危機管理型水位計

◆整備方針（概要）

- (1) これまでの考え方（下記①～③）を参考に、危機管理型水位計と河川監視カメラの配置バランスを保ち、効果的に配置。
 - ①堤防高さや川幅などから相対的に氾濫が発生しやすい箇所
 - ②氾濫により行政施設・病院等の重要施設が浸水する可能性が高い箇所
 - ③支川合流部など、既設水位計だけでは実際の水位がとらえにくい箇所
- (2) 水害リスクが想定される河川で、人家・資産のある箇所から選定。
- (3) 既存水位計、監視カメラの設置箇所を踏まえて位置を選定。
- (4) 各地域部会で配置計画を作成。
- (5) 河川課は、各配置計画を基に整備方針や維持管理を勘案し、全体計画をまとめる。



9

危機管理型水位計・河川監視カメラの整備方針(令和3年7月作成)

【取組2】河川監視カメラ・危機管理型水位計

◆R3年度配置計画

土木	危機管理型水位計			河川監視カメラ		
	H30～R2	R3	計	H30～R2	R3	計
前橋	28	3	31	20	4	24
渋川	21	14	35	5	3	8
伊勢崎	15	2	17	11	2	13
高崎	43	2	45	11	8	19
安中	12	4	16	2	6	8
藤岡	16	5	21	3	4	7
富岡	21	13	34	12	2	14
中之条	37	8	45	3	7	10
沼田	26	1	27	2	3	5
太田	13	0	13	4	1	5
桐生	23	0	23	4	5	9
館林	28	0	28	12	1	13
整備数計	283	52	335	89	46	135

10

整備方針の基づき作成した令和3年度配置計画

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名:群馬県

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組:群馬県リアルタイム水害リスク情報システム

○実施概要:県管理河川の数時間先の河川水位や浸水範囲が予測できる「群馬県リアルタイム水害リスク情報システム」を構築し、令和3年7月より水防関係機関向け試行運用を実施した。令和4年5月に県民向けに水位・雨量情報のほか、これまで整備した危機管理型水位計・河川監視カメラを集約して公開予定。



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：群馬県

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：まるごとまちごとハザードマップの整備促進

○実施概要：「河川氾濫に関する群馬県減災対策協議会」において、設置事例や利活用事例等の共有を図った。

【取組5-②】まるごとまちごとハザードマップ

◆整備（類似）事例紹介

電柱を活用した「小型表示」や「地域貢献型広告」

○「小型表示」



制作設置費：7,040円

月管理費：無料

※契約期間5年間

更新時7,040円

○「地域貢献型広告（自治体向け）」



スポンサー
広告部分

避難誘導
広告部分

制作設置費

月管理費

通常巻き広告：

17,600円

2,200

～2,860円



地域貢献型広告：

11,000円

2,000

～2,660円

※費用は全てスポンサー持ち

東電電柱を活用した表示事例紹介

14

機関名:群馬県

○具体的取組：防災教育の実施

○実施概要：前橋市と連携し、共愛学園中高生を対象に防災教育を実施した。ロングホームルームの時間を活用し、ハザードマップや防災情報の確認方法を説明した。コロナ対策としてYouTubeライブ配信を用いて各教室で受講してもらい、防災情報の確認方法の説明では、全生徒に支給されているiPadを用いた操作演習を実施した。

日程：令和3年10月14日

対象：共愛学園中高生 約1,300名

時間：50分

科目：ロングホームルーム

内容：ハザードマップや防災情報の確認方法等

配布資料：



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名:群馬県

水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組

○具体的取組:重要水防箇所共同点検

○実施概要:県内土木事務所において、管内市町村の防災・土木担当および地域住民の代表者(町内会長等)と重要水防箇所の合同点検を実施した。

○近年の豪雨で課題となっている避難行動について、地域住民が自らリスクを察知し、主体的に避難行動を実施してもらうため、各土木事務所管内における水害リスクの高い区間(重要水防箇所等)について、河川管理者と水防活動に関わる関係者(水防活動に係る建設業者を含む)及び地域住民の代表者が共同して点検を実施しました。

令和3年度共同点検の参加機関

- ・太田土木事務所管内: 8 機関 計 19名
- ・桐生土木事務所管内: 4 機関 計 10名
- ・館林土木事務所管内: 3 機関 計 5名

各事務所における合同点検の様子



太田土木管内での実施
(太田市徳川町地先)



桐生土木管内での実施
(桐生市川内町地先)



館林土木管内での実施
(館林市上三林地先)

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：群馬県

排水活動及び施設運用の強化に関する取組

- 具体的取組：排水実働訓練の実施
- 実施概要：排水ポンプ車運用マニュアルに基づくポンプ車等による排水実働訓練を実施した。



太田地域部会による訓練



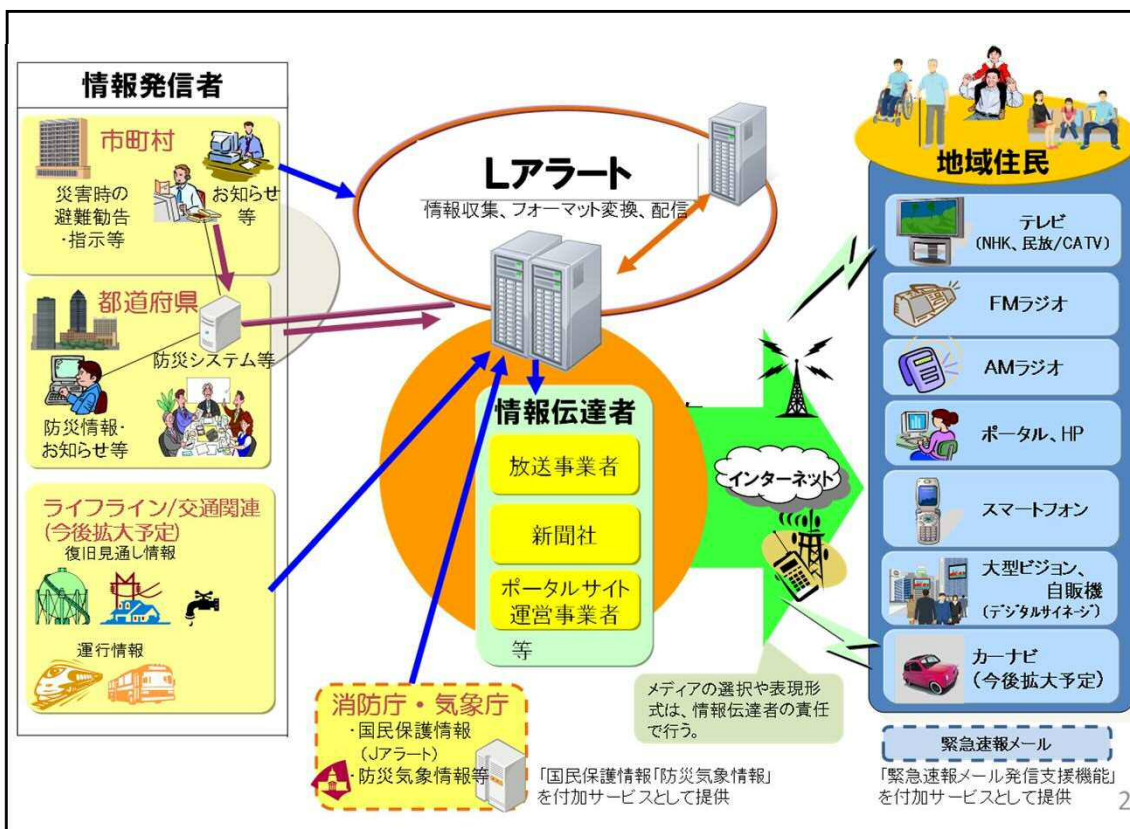
邑楽館林地域部会による訓練

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組:群馬県総合防災情報システムによるLアラートやSNSへの配信

○実施概要

群馬県内市町村が、群馬県総合防災情報システムに避難情報や災害情報を入力することにより、LアラートやSNSへの配信がされ、テレビ・ラジオ等の様々なメディアを通じ、住民への迅速な情報提供を可能としている。



<取組内容>

・防災ポータルが多言語化、音声自動読み上げ、色味変更等を実施。

<今後の予定>

・群馬県総合防災情報システムにて、緯度経度情報、避難所の混雑状況の入力、配信ができるように改良予定

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：群馬県

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：「ぐんま地域防災アドバイザー防災士養成講座」を開催

○実施概要

自主防災組織のリーダーとして活躍できる人材の育成・発掘を目的に、「ぐんま地域防災アドバイザー」の拡充及び育成を図るため、「防災士」を養成する「ぐんま地域防災アドバイザー防災士養成講座」を開催している。

ぐんま地域防災アドバイザー防災士養成講座



＜令和3年度 取組状況＞

第1回

○集合研修日程

令和3年12月18日(土)19日(日)(高崎市内)

○参加人数： 96名

第2回

○集合研修日程

令和3年12月25日(土)26日(日)(太田市内)

○参加人数： 52名

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：埼玉県

水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組

○具体的取組：出前講座の実施について

○実施概要

- ・消防学校の生徒を対象とした出前講座（水防工法）
- ・日時：令和3年11月17日 9:30～12:20
- ・対象者：消防学校の生徒36名（採用1年目から2年目）
- ・実施場所：埼玉県消防学校
- ・実施内容：水防工法（土のうづくり、積み土のう工）



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

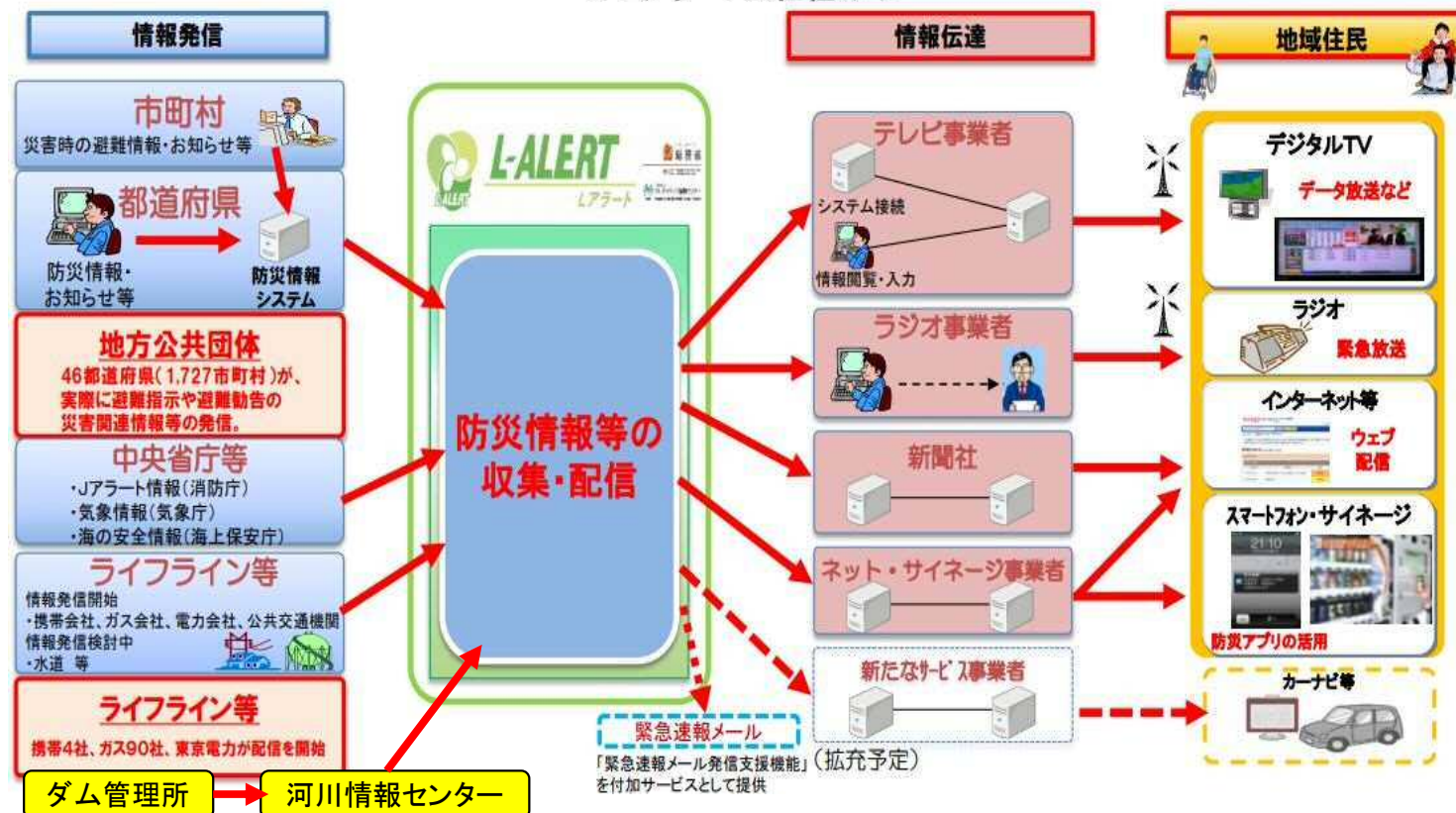
機関名：(独)水資源機構草木ダム管理所

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組： 住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信

○実施概要： 計画規模を超える洪水によりダムが異常洪水時防災操作に至ると予測される状況になった場合には、現行のダム通知により関係機関に周知するとともに、Lアラートにより報道機関に情報を伝達し、報道機関を通して広く一般に周知する。

＜Lアラートの仕組み＞



地域住民への周知(例)

Examples of disaster information dissemination to local residents:

- 避難情報 (Evacuation Information):** A video of a news anchor reporting on evacuation information for the city of Shikoku and the city of Shikoku.
- L字型画面・テロップ (L-shaped screen/teletext):** A screenshot of a news broadcast showing evacuation information.
- データ放送 (Data Broadcasting):** A screenshot of a news broadcast showing evacuation information.
- ウェブサイト (Website):** A screenshot of a website showing evacuation information.
- 情報伝達者より地域住民へ情報伝達 (Information transmission from information transmitter to local residents):** A screenshot of a website showing evacuation information.
- 防災情報アプリ (Disaster Information App):** A screenshot of a mobile app showing evacuation information.

出典：総務省 第1回今後のLアラートの在り方検討会 資料1-2 「Lアラートの現状」(H30.7)に一部加筆

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：(独)水資源機構草木ダム管理所

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組： 想定最大外力を反映した洪水ハザードマップの策定および普及・啓発

○実施概要： 自治体によるハザードマップ作成のための参考情報として、草木ダム～高津戸ダムまでの間の浸水想定区域図を作成し、沿川自治体へ情報提供。
また、作成した浸水想定区域図は草木ダムHPにて公開。

草木ダムHP



草木ダムのサイレン (サンプル)
QRコードをスキャンすると、サイレンの音声が再生されます。

浸水想定図
草木ダムからのお知らせ

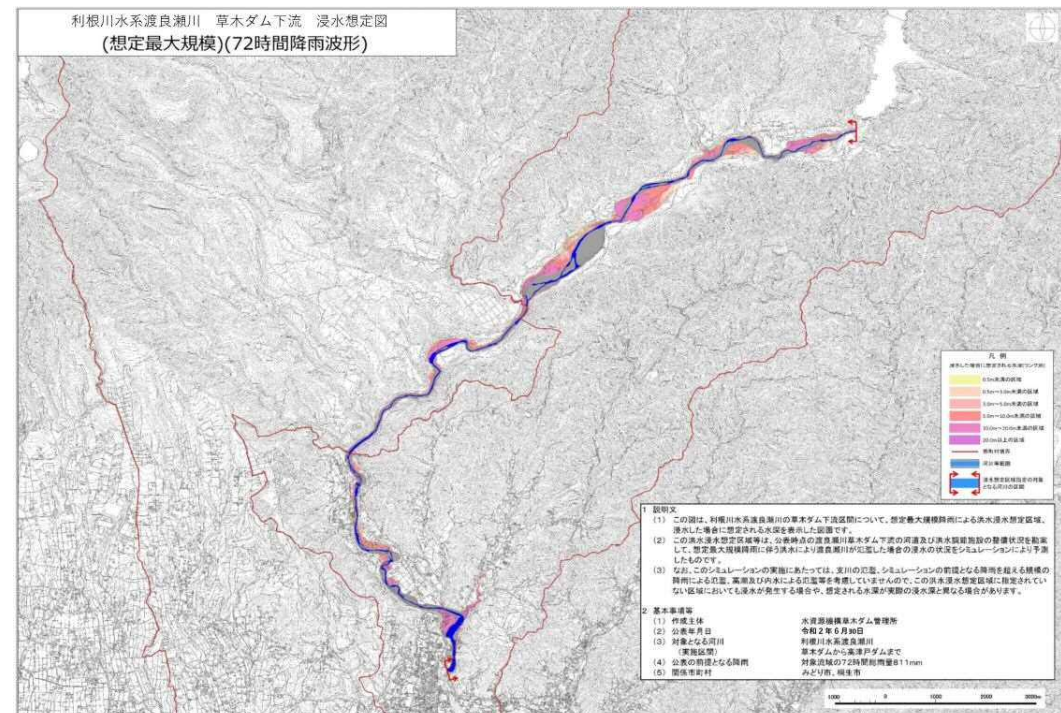
渡良瀬川の草木ダムから高津戸ダムまでを対象に「浸水想定図」を作成しました。

- 草木ダムから高津戸ダムまでの渡良瀬川において、断続的な河川の整備状況を前提として、想定し得る最大規模の降雨により、川から氾濫した場合に浸水が想定される範囲、浸水した場合に想定される水深を示した浸水想定図を作成しました。
- この浸水想定図を作成にあたっては、支川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定図に表示されていない範囲においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際と異なる場合があります。

草木ダムライブ映像

▲ダムの目的
▲流域の概要
▲施設の概要
▲事業の歴史
▲建設の歴史「写真集」
▲発電の紹介
▲草木ダムの最新情報
▲川の防災情報
▲浸水想定図

浸水想定区域図(草木ダム～高津戸ダム)



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：気象庁

情報伝達、避難計画等に関する取組

- 具体的取組：避難勧告に着目したタイムラインの策定及び関連機関との連携状況や訓練の実施等を踏まえた見直しの検討
- 実施概要：令和3年度栃木県防災図上総合訓練に参加。想定気象状況として、令和元年東日本台風を利用し、現地災害対策本部（市貝町）と連携した防災対応を行う訓練において気象解説を実施。

【日 時】：令和3年7月9日

【場 所】：栃木県庁8階（危機管理センター対策室）

⇔ 市貝町



宇都宮地方気象台

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名: 気象庁

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組: 避難勧告に着目したタイムラインの策定及び関連機関との連携状況や訓練の実施等を踏まえた見直しの検討

○実施概要: 気象防災ワークショップを実施

●栃木県が行う「防災気象情報に関する研修会」(令和3年度: 栃木県・市貝町防災研修会)において、気象防災ワークショップ(土砂災害編)を実施。

【日 時】: 令和3年11月26日(午前・午後) 【場 所】: 市貝町役場

【参 加 者】: (グループワーク)市貝町職員(34名) (スタッフ) 県危機管理課 市貝町 気象台

●気象台が主催し、Web会議システムを利用したオンライン形式による気象防災ワークショップ(中小河川洪水編)を実施。

【日 時】: 令和4年2月21日(午後) 【場 所】: オンライン(気象台～各市町)

【参 加 者】: 11市町(那須町、那須塩原市、塩谷町、さくら市、宇都宮市、真岡市、芳賀町、益子町、茂木町、壬生町、野木町) (スタッフ) 気象台

●気象庁等から提供される気象情報を適切に使い、的確なタイミングで防災体制の強化や迅速な避難情報の判断・伝達を実施できるよう演習。



宇都宮地方気象台

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名: 気象庁

情報伝達、避難計画等に関する取組

○具体的取組: 避難勧告に着目したタイムラインの策定及び関連機関との連携状況や訓練の実施等を踏まえた見直しの検討

○実施概要: 気象防災ワークショップを実施

●気象台と群馬県が共催し、気象防災ワークショップを実施。

【日 時】: 令和3年12月16日(午後) 【場 所】: 群馬県利根沼田振興局 【教 材】土砂災害編
【参 加 者】: 4市町村(沼田市、片品村、川場村、みなかみ町) (スタッフ) 利根沼田行政県税事務所、気象台

【日 時】: 令和4年3月2日(午後) 【場 所】: 群馬県太田合同庁舎 【教 材】中小河川洪水編
【参 加 者】: 5市町(太田市、伊勢崎市、みどり市、玉村町、大泉町) (スタッフ) 太田行政県税事務所、気象台

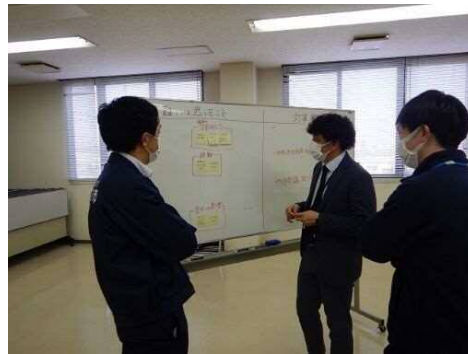
【日 時】: 令和4年3月10日(午後) 【場 所】: 群馬県地域防災センター(前橋市) 【教 材】土砂災害編
【参 加 者】: 4市村(前橋市、渋川市、安中市、榛東村) (スタッフ) 前橋行政県税事務所、気象台

●気象庁等から提供される気象情報を適切に使い、的確なタイミングで防災体制の強化や迅速な避難情報の判断・伝達を実施できるよう演習。



令和4年3月2日 太田合同庁舎(中小河川洪水編)

前橋地方気象台



令和4年3月10日 群馬県地域防災センター(土砂災害編)

前橋地方気象台

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：気象庁

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：小中学校における水災害教育の実施

○実施概要：

- 栃木県教育委員会主催の、とちぎ子どもの未来創造大学の出前講座「体験気象学」において、実験を通じた気象に関する講座を実施。気象庁（気象台）の業務の説明や実験を通し、気象及び防災に関する意識を高めた。【宇都宮地方気象台】
- 2つの中学校から職場体験を受け入れ、体験学習の中で気象庁（気象台）の業務の説明や実験を通し、気象及び防災知識の啓発を実施。【宇都宮地方気象台】
- 伊勢崎市立殖蓮（うえはす）中学校と連携して、中学生向けの「天気予報についての解説動画」を作成し、同校に提供した。【前橋地方気象台】

・「体験気象学」令和3年7月29日 野木町公民館 23名（保護者数名）



「職場体験」

令和3年11月 9日～11日 中学生（4名）

令和3年11月30日～12月 1日 中学生（5名）



宇都宮地方気象台

Isesaki School Magazine
伊勢崎市学校教育情報誌
殖蓮中学校用NO.1

前橋地方気象台の方に天気予報のポイントのビデオとスライドを作成して頂きました

2年理科の気象の学習で天気予想をする活動を行いました。気象は季節ごとに特徴があり、様々な気象要素が絡むため、天気予想をするのは大変難しい活動です。そのため、前橋地方気象台の方々にどのようにすれば中学生が天気予想をスムーズにできるかを相談したところ、季節ごとの天気の特徴と天気予報のポイントをわかりやすくレクチャーしてくれるビデオとスライドを作成してくださいました。

解 説

天気予報のポイントは、気象要素の理解と、気象要素の観測方法です。

高気圧と低気圧とその周辺の雲

高気圧は気圧が高く、雲が少なく晴れます。低気圧は気圧が低く、雲が多く雨が降ります。

気圧と風

気圧が高いところから低いところに向かって風が吹きます。気圧の差が大きいほど風が強く吹きます。

気象の専門家がポイントを押さえながら解説してくれるので、とてもわかりやすい内容となっています。また、様々な写真や図、衛星写真を活用して作成されているので、生徒達も視覚的にも大変捉えやすくなっています。

伊勢崎市学校教育情報誌「ISM」での紹介（一部抜粋）

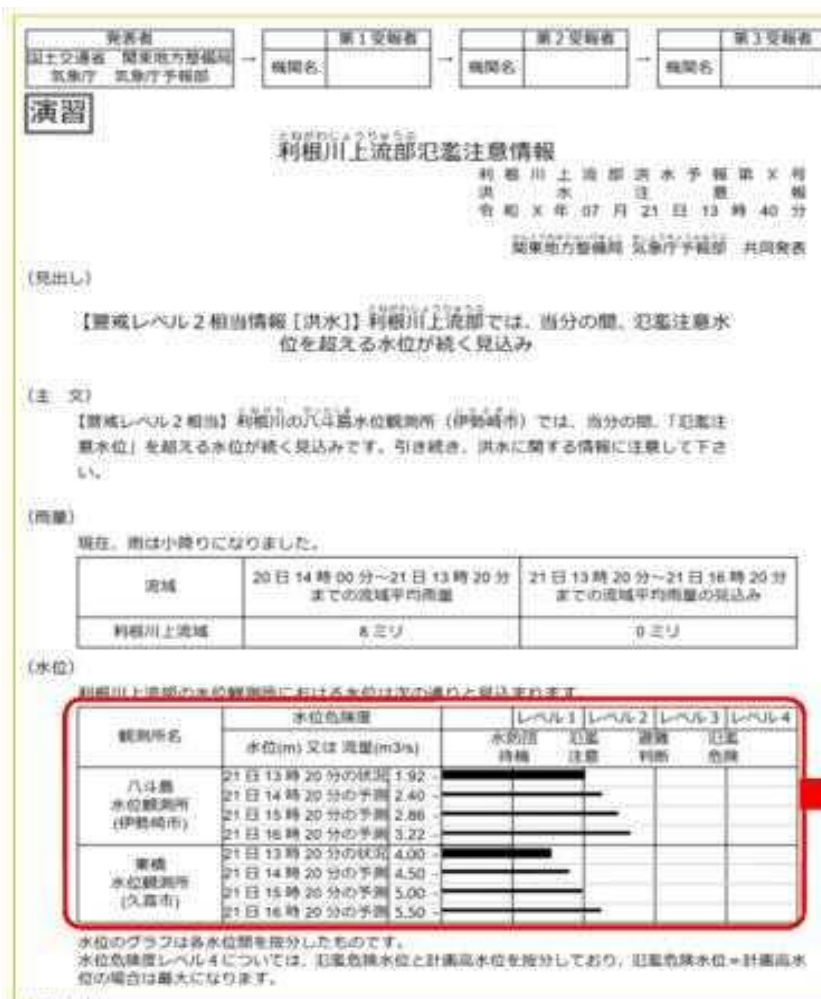
前橋地方気象台

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：気象庁

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

- 具体的取組：「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の提供等、防災気象情報活用に向けた啓発・普及
- 実施概要：指定河川洪水予報の予測時間延長



- 国管理河川の（水位）の欄が6時間先まで拡張される
- （都道府県管理河川は変更なし）

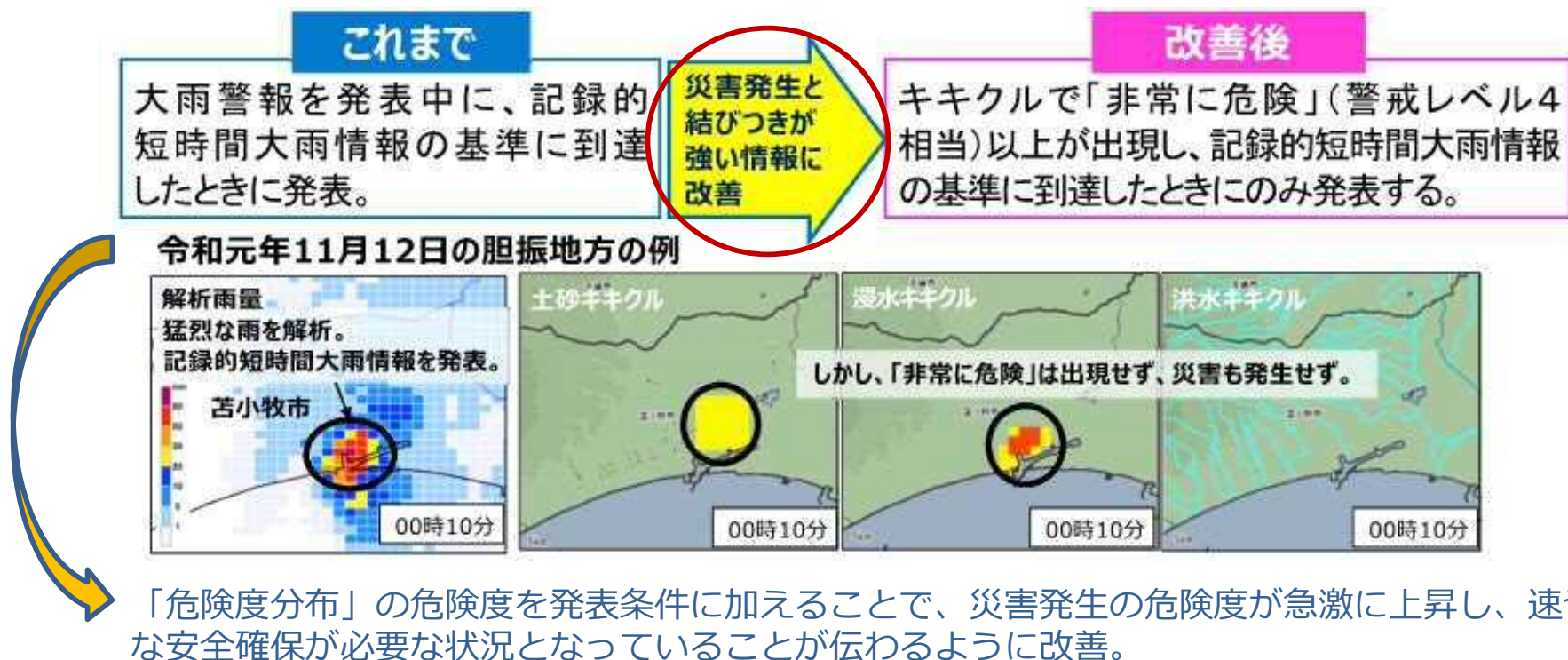
観測所名	水位(m)又は流量(m³/s)	水位危険度			
		レベル1 水防団 待機	レベル2 氾濫 注意	レベル3 避難 判断	レベル4 氾濫 危険
八斗島 水位観測所 (伊勢崎市)	21日13時20分の状況	1.92			
	21日14時20分の予測	2.40			
	21日15時20分の予測	2.86			
	21日16時20分の予測	3.22			
	21日17時20分の予測	3.40			
東橋 水位観測所 (久喜市)	21日13時20分の状況	4.00			
	21日14時20分の予測	4.50			
	21日15時20分の予測	5.00			
	21日16時20分の予測	5.50			
	21日17時20分の予測	5.50			

「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：気象庁

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

- 具体的取組：「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の提供等、防災気象情報活用に向けた啓発・普及
- 実施概要：記録的短時間大雨情報の改善
 - 災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように、記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表。



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：気象庁

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の提供等、防災気象情報活用に向けた啓発・普及

○実施概要：顕著な大雨に関する情報を提供

●線状降水帯がもたらす降り続く顕著な大雨への注意喚起

●位置づけ～情報のコンセプト～

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により、非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する「顕著な大雨に関する情報」を提供。

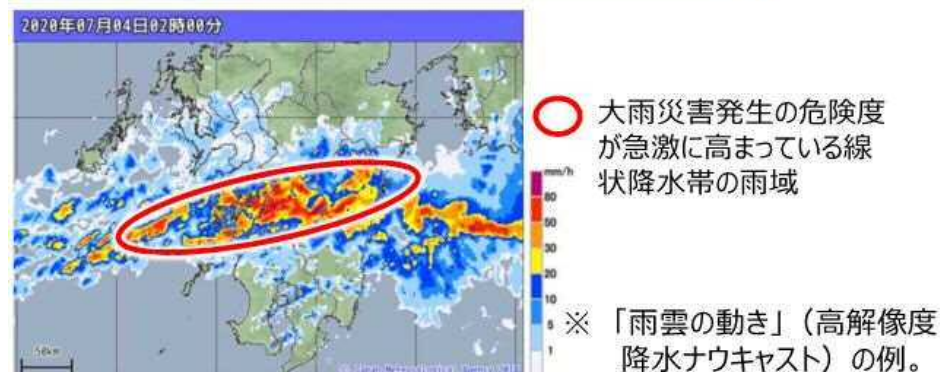
※この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報 = 警戒レベル4相当以上の状況で発表。

顕著な大雨に関する情報の例

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

顕著な大雨に関する情報を補足する 図情報の例



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：気象庁

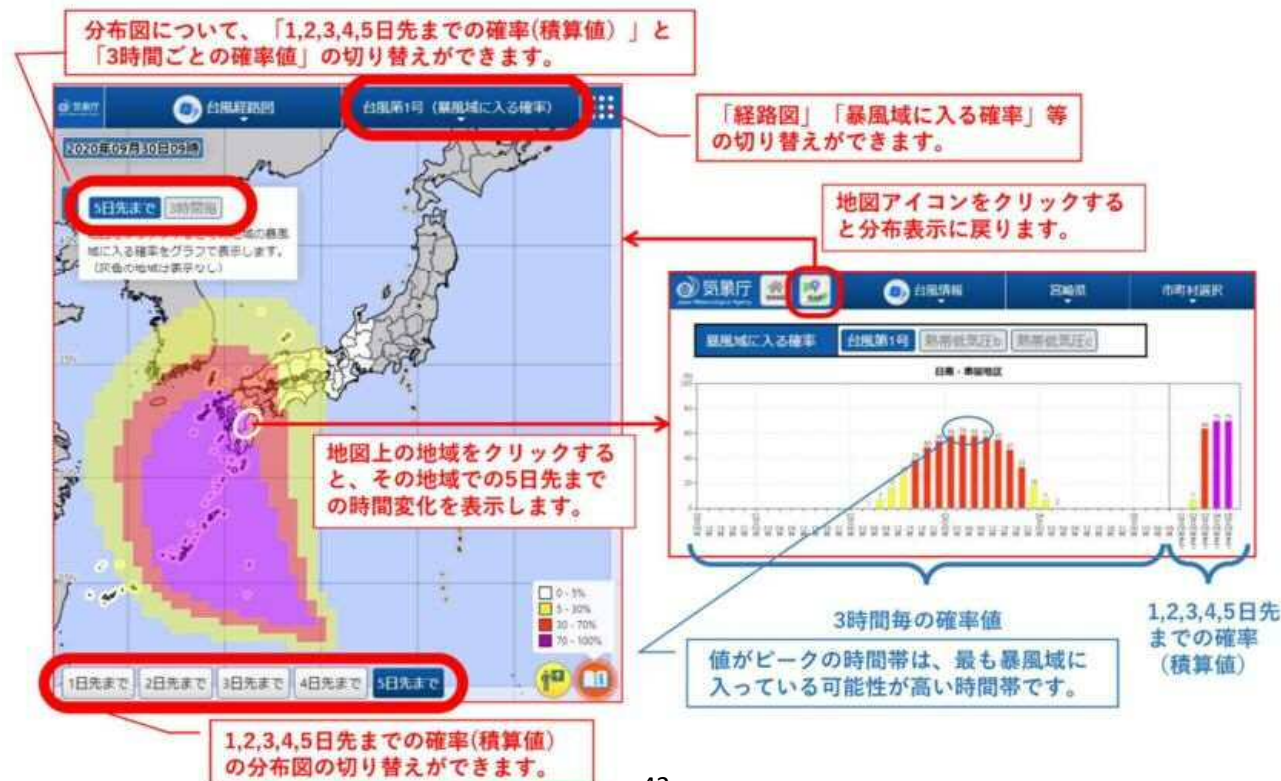
平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の提供等、防災気象情報活用に向けた啓発・普及

○実施概要：「台風の暴風域に入る確率」の発達する熱帯低気圧の段階からの提供

- 「台風の暴風域に入る確率」について、24時間以内に台風が発達すると見込まれる熱帯低気圧の段階から提供。

気象庁ホームページのコンテンツ「台風情報」では、台風及び発達する熱帯低気圧について、確率の分布表示（下の表示例の左図）や地域ごとの時間変化（下の表示例の右図）を表示。



「渡良瀬川の減災に係る取組方針」の実施状況

機関名：渡良瀬川河川事務所

平時から住民等への周知・教育・訓練に関する取組

○具体的取組：総合学習及び出前講座による防災教育

○実施概要：河川をより身近に感じてもらうために実施している総合学習の一部及び出前講座で防災教育を実施し、将来地域の担い手になる子ども達の防災への関心を深めることを目的。

■出前講座

- ①洪水ハザードマップにより、浸水時の状況を確認し、被害に対する意識向上
- ②マイタイムライン作成による、自主避難に対する意識向上
- ③洪水の写真により、平時からの水防に対する準備の必要性認識

総合学習実施 令和3年6月23、24日



■総合学習の一部として防災の必要性を説明

出前講座実施 令和3年5月26日、12月3、8、13日



■総合学習後、環境・防災の出前講座を実施
(洪水ハザードマップ・洪水時の写真)